

# 子どもと女性の健康相談室

21



福島医大ふくしま子ども女性医療支援センター教授  
高橋 俊文氏

前回は過多月経の診断原因について述べました。今回は、過多月経の治療について説明します。過多月経の原因の多くは子宮筋腫や子宮腺筋症などの良性疾患ですが、子宮体がんなどの悪性疾患も原因となる場合があります。原因をしっかりと調べた上で治療を開始しましょう。

原因を特定した上で、薬物療法により出血量を軽減させる治療が第一選択となります。薬物治療はホルモン

二種類の女性ホルモン（エストロゲンと黄体ホルモン）が含まれてい

方、高血圧の方、血栓症の方、既往のある方などです。このような方は、子宮内黄体ホルモン放出システムがよい適応となりま

合は保険適用がありません。ホルモン療法以外の薬物療法としては、トラスキサム酸や非ステロイド系の鎮痛薬なども過多月経に対して有効です。

る手術療法があります。今後の妊娠・出産を希望する場合は、子宮を摘出する手術療法があります。今後の妊娠・出産を希望しない方で子宮を温存する方法として、子宮動脈塞栓（そくせん）術、MRIガイド下集束超音波治療、子宮内膜焼灼（し

## 原因調べ治療選択を

過多月経の治療は、①原因疾患に対する治療、②出血量を軽減させる治療、③貧血に対する治療

治療法が基本です。ホルモン療法として、経口避妊薬（ピル）や低用量ピルが使用されま

で月経時の出血量が減少します。これは、黄体ホルモ

す。これは、黄体ホルモンをゆっくりと子宮局所に作用させることで子宮内膜の増殖を抑え、月経量を減少させます。子宮

子宮筋腫や子宮内膜ポリープに対しては、薬物治療で出血量を軽減させると同時に、妊娠・出産の希望の有無によって手術療法を考慮します。子宮筋腫の大きさや発生部位により手術方法は異な

りませんが、現在は内視鏡を用いた摘出手術が主流となっています。今後の妊娠・出産を希望されない場合は、子宮を摘出する手術療法があります。今後の妊娠・出産を希望しない方で子宮を温存する方法として、子宮動脈塞栓（そくせん）術、MRIガイド下集束超音波治療、子宮内膜焼灼（し

### 過多月経(下)

日十五本以上喫煙する

とができます。ピル、低

位により手術方法は異な

しご相談ください。次回は来年1月15日